

道徳部会

研究主題 人とのかかわりを通して、

よりよい生き方を目指そうとする生徒の育成

1 主題について

自分の考えをもち、他者とのかかわり合いを通して、相手の気持ちもとらえながら考え、生き方を見つめたり、考え直したりすることをねらいとして本主題を設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	11月12日	第2回総合研究会 授業研究会(南中学校)

3 研究内容

(1) 研究授業

- ・期 日 平成25年11月12日(火)
- ・主 題 学校を愛する心 <4-(7)>
- ・資 料 名 「伝統に終わることなく伝説に」
- ・会 場 南中学校
- ・授業者 澤藤 真奈美
田山 律子
戸沢 直樹

① 授業者から

- ・発問1では自分のことしか考えていない隆弘を、発問2では誰かのために頑張っている隆弘を考えることによって、中心発問につなげようと思っていた。
- ・資料を読んだ後、すぐ机の中にしまわせたのは、発問に対する考えを本文に書かれている言葉で言わせたくなかったからである。資料の内容は、板書や挿絵の表情などで想起させようと考えていた。
- ・今年は学年で道徳の授業に取り組もうと思い、道徳の授業をTTで行った。役割を決めることで、板書をする、生徒の表情を見ながら発問することにそれぞれ専念することができた。学年部で取り組むことによって、生徒の成長を見守ることができるよさもあった。



【発問に挙手をする生徒】

② 協議

- ・タイトルにもある「伝統から伝説に」という言葉について
 - 「伝統」や「伝説」という言葉を使うと、生徒の発言が表面的なものになりそうだったのでは本時では触れなかった。
 - 伝説には、より高みを目指そうとする意味合いがあるととらえて授業を行った。
 - ねらいや学年が違えば、授業の流し方がこんなに違うのかということが実感できた。
- ・資料から離れ、自分の生き方を見つめ価値の内面化をはかる工夫について
 - 南中のよさを伝えていたので、ねらいに迫っていたと思った。
 - 「もらったたすきをこれからどのようにしていくか」を本時では考えたが、これを考える前に、「たすきを受け取っているという自覚」や「たすきを受け取って過ごしている今までの自分を振り返る」時間が必要だったのではないだろうか。
 - 自分を振り返ることができる、次につながる。
- ・愛校心という主題は、取りかかりづらいという印象があったが、この時期にぴったりの内

容で、授業で扱うことができてよかった。

(2) テーマ研究

- ・各校で、本時と同じ主題と資料で実践したものを紹介しながら協議を行った。

(3) 指導助言（田中 覚 指導主事）

- ・温かい雰囲気、人間関係が良好であることが感じられた。話型を生かした発言場面が見られたが、道徳の時間の特質から、友だちの発言に対して「いいと思います。」というよりも「同じです。」など、言い方を工夫した方がよい。
- ・TTが効果的に機能していた。範読、板書、発問等3人の教師が適切に役割分担をしながら、生徒の思考をよく見取り、授業をコーディネートしていた。学習指導案に、TTの支援の具体が示されている必要がある。
- ・授業に引き込む導入の寸劇、授業の流れが分かる板書、生徒の日常の活動を想起させる写真、保護者の感想を紹介するなどたくさんの指導の工夫があった。導入は、主題につながるものであることが大切である。
- ・諸計画がよく整理されていた。全体計画とその別葉、関連構想図、板書計画が適切に作成、活用され、指導に生かされていた。
- ・中心的な発問は、生徒がねらいとする道徳的価値を自覚につながるものである。本時の中心的な発問を例えば「隆弘はどういう気持ちから両手のこぶしを固く強く握りしめたのか。」とすればどうだっただろうか。それまでの基本的な発問によっていろいろな人に支えられているということや、これが伝統だということの二つの気付きから、ねらいとする道徳的価値を自覚につながったのではないか。
- ・生徒の発言を予想して、それに対する複数の補助発問を準備し、その発問を基に生徒に問い返したり、全体に広げたりしながら、価値についてより深く考えさせるような発問の内容を工夫すること。
- ・展開の後段では、生徒の決意や望ましい行為について求めるものではなく、「どうしたいか」と問うよりも日常生活での体験を通して感じたことを基にねらいとする道徳的価値が自覚できるようにしたい。「あいさつを受け継ぎたい」ではなく、「大切だから受け継ぎたい」、「価値があるから受け継ぎたい」という行為の裏側にある道徳的価値の自覚につながるような発問を工夫したい。
- ・終末の場面では、別の角度から道徳的価値の自覚を高めたい。保護者の感想を扱うことはよかったが、じっくりかみしめながら読み取る時間がほしかった。
- ・本研究会を実施するに当たり、各校で事前に授業を行っていたことが協議の深まりにつながった。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・発問を吟味し、中心的な発問につながるよう授業をコーディネートすることが大切だということが確認できた。
- ・道徳の時間におけるTTの効果的な実践を参観することができた。

(2) 課題

- ・授業を組み立てる際、資料分析を緻密に行い発問を吟味したい。中心的な発問は、ねらいにせまる発問になるように、展開後段は、その行為をしようとする根拠を引き出せるような発問になるようにしたい。
- ・終末は、別の角度から道徳的価値を高められるよう工夫したい。